

# 卒業演習(日本史1)－Ⅱ

科目ナンバリング SEM-402  
選択必修 2単位

相澤 央

## 1. 授業の概要(ねらい)

日本古代史に関する論文の中から、報告者が関心のあるテーマの論文を選び、論文の要旨や意義、疑問点、批判点などについてレジュメにまとめて報告する。報告者以外の演習参加者も同じ論文を事前に必ず読み、自分の意見をもって演習に参加し、全員で討論する。授業は当番の司会者が、発表・質疑・討論の進行をして、最後にまとめる。

## 2. 授業の到達目標

- ① 研究論文を読解し、要旨を簡潔にまとめる力を身につける。
- ② 疑問点・批判点など、自分の意見をまとめて発表する力を身につける。
- ③ 各自の研究テーマを選び、関連論文を読み、史料を読解して、8,000字程度のレポートにまとめる。

## 3. 成績評価の方法および基準

授業での発表・報告レジュメ・討論への参加(50%)と、8,000字程度の期末レポート(50%)で評価する。

## 4. 教科書・参考文献

参考文献  
佐藤信編 『古代史講義―邪馬台国から平安時代まで―』 ちくま新書  
『岩波講座日本歴史』1～5 岩波書店  
『列島の古代史』2～7 岩波書店

## 5. 準備学修の内容

報告担当者は、選んだ論文の要旨と疑問点・批判点などについてまとめたレジュメを作成する。担当者以外も必ず論文を読み、自分の意見や疑問点などをノートにまとめて授業に参加すること。学期末のレポートの作成に向けて、関心のあるテーマに関わる文献や史料を読み、日ごろから各自で自主的に準備を進めること。

## 6. その他履修上の注意事項

卒業論文で日本古代史を希望する学生は必ず履修すること。この演習で選んだ研究テーマを卒業論文に発展させることが望ましい。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス。演習の進め方、論文リストの配布など。
- 【第2回】 報告担当論文の決定。報告・司会の順番の決定など。
- 【第3回】 報告担当者による発表と全員での討論①
- 【第4回】 報告担当者による発表と全員での討論②
- 【第5回】 報告担当者による発表と全員での討論③
- 【第6回】 報告担当者による発表と全員での討論④
- 【第7回】 報告担当者による発表と全員での討論⑤
- 【第8回】 報告担当者による発表と全員での討論⑥
- 【第9回】 報告担当者による発表と全員での討論⑦
- 【第10回】 報告担当者による発表と全員での討論⑧
- 【第11回】 報告担当者による発表と全員での討論⑨
- 【第12回】 報告担当者による発表と全員での討論⑩
- 【第13回】 報告担当者による発表と全員での討論⑪
- 【第14回】 報告担当者による発表と全員での討論⑫
- 【第15回】 報告担当者による発表と全員での討論⑬